BARRAGE

BY JOHN BANNON

（**訳注**：タイトルの「BARRAGE」とは、「集中砲火」の意味であり、ここでは「面白いトリックの総攻撃」といった感じでしょうか？内容的にも、変化に富んだ John Bannon の面白い作品が収録されていますが、例えば、「MUNDO」は彼のラスベガスレクチャーでも取り上げられた彼のお気に入りであり、また最後の「TRIPLICITY２０２２」のオリジナル版は以前訳者も某ディープなマジック会で演じて好評を得た楽しい思い出があります。
ここに収録された８作品は、難しいテクニックを使わないのがうれしいですが、その分ハンドリングを自然にスムースに演じられるように練習はしてください。練習の要らないマジックはありませんし、練習もまた楽しいものです。
では、JOHN BANNON の巧妙な作品群をお楽しみください）

1. FOURS MAJEURE（不可抗力）

（現象）

いくつもの驚くべきカードのトランスポジション（移動）が起こります：A、K、Q、Jのそれぞれ４枚のパケットが客の指示によって移動し、最後にはデックから取り出した別の４枚と入れ替わってしまいます。もう少し詳しく述べてみましょう。

マジシャンは、A、K、Q、Jを４枚ずつ取り出して、同じ数値の４枚をそれぞれパケットにしたら、各パケットのトップカードを表向きにします。残りのデックは軽くシャフルしたら、客にカットさせておきます。

客に２つのパケットを選ばせたら、そのトップカードを交換します。例えば、QとJを入れ替えたとします。Qをトップに乗せたパケットを表向きにすると、カードはすべてQとなっています。他の３枚のQがリーダーについてきたのです！

次に客にまた２つのパケットを選ばせます。KとJとします。表向きのトップカードを入れ替えてから、Kの乗ったパケットを表向きにすると、すべてのカードがKとなっており、またリーダーに従ったことが分かります。

残った表向きのAとJを入れ替えると、また４枚のAが集まっていることが分かります。

客がカットしたデックのトップから４枚のカードをテーブルに出して、最後のカードを表向きにします。仮に「２」だとします。

表向きのJと２を入れ替えます。すると、Jを乗せたパケットにすべてのJが集まります。

最後に、表向きの２が乗ったパケットを開けて見ると、すべての２が集まっているのです！

これは、最も簡単に成功が手に入るカードトリックと言えます。次第に不可能性が増していく、５段階の驚きの場面を持つ易しい、セルフワーキングトリックです。セルフワーキングとは言うものの、多くの不思議なことが起こりますし、巧妙なやり方によってマジシャンもその場ではやり方を見破るのが難しいでしょう。

こうした同じ数値の４枚を使った漸進的「FOLLOW THE LEADER」のプロットは、Marlo の「ACES、KINGS、TENS」（「MARLO IN SPADES」（１９４７年）に掲載）が始まりだと思います。Marlo は、３組の同一数値カードとスイッチを使いました。その後、１９８３年頃に Roxy によって、５組の同一数値カードを使う、「ONE-AHEAD」原理を応用した「SURPRISE FOLLOW THE LEADER」（「PABULAR」誌 VOL.7NO.3）が発表されましたが、私はその簡単さと「ONE-AHEAD」原理をうまく隠すやり方に感心しました。カードを巧妙にセットすることにより、仕組みがより分からなくなっているのです。

Roxy のやり方からスタートして、私は始めのセットを変更してよりセルフワーキングなものに近づけました（それによりかえってトリックがディセプティブ（だまされる）なものになりました）。また、最後にまったく不思議な移動現象を付け加えました。そして、その過程でどの「リーダーカード」を入れ替えるかを客に選ばせるという Dave Solomon のやり方を活用しましたが、それにより、さらにベースにある[redacted]原理が隠されることになりました。

（準備）

―以下省略―

（やり方）

―以下省略―

2. THREE IMPOSSIBLE THINGS

（現象）

マジシャンはデックをシャフルしながら、客にこう言います：

「これから、３つの不可能なことをやってみたいと思います。

まず私がなにか驚くべきことをやってみます。次にあなたに驚くべきことをやってもらいます。しかし、もっとも驚くべき驚異的なこともあなたにやってもらうのです。しかも、あなたは自分がそれをやったとは気づかないでしょう」

客にデックをシャフルさせたら、マジシャンはデックから鮮やかな手つきで４枚のKを取り出して見せます！

「どうです、驚くべきことですよね？

これらのKには重要な役割があるのですが、その前にやっていただきたいことがあります。ああ、このデックはもうシャフルされていますが、あなたは疑いの目で見ているような気がします」

と言って、客にデックを渡してシャフルさせます。

「私はもうカードには触らないようにします」

客にデックを４つのパケットに分けさせます。マジシャンは４枚のＫを取り上げて１枚ずつ各パケットの上に置きます。

客に１つのパケットを持たせたら、そのエンドを他の３つのパケットに向かって弾いてもらいます。次に持っているパケットのトップから４枚のカードを表向きでテーブルに配ってもらいます。すると、それらは４枚のＫなのです！

「これはとても驚くべき現象です。素晴らしい仕事をしましたね。

でも、もっとも驚くべきこともあなたにやってもらうと言ったのを覚えていますか？また、あなたはそれをしたことも覚えていないだろうとも言いましたね？

あなたはデックをシャフルし、４つの山に分けました。私は一切手を触れていません。

確かにＫはいろいろなカードゲームにおいて有効なカードですが、さらに強いカードが存在します。それはＡです」

客に４つのパケットのトップカードを開けさせると、４枚のＡが現れるのです！

この素晴らしいルーティンは、私が「GENII」誌の私のコラム「DEALING WITH IT」に発表した２つのトリック、「BLITZEN」（２０２０年３月）と「THREE PART HARMONY」（２０１８年３月）を組み合わせてブラッシュアップしたものです。
変わった K のプロダクションの後に、Richard Vollmer のとても素敵なトリック「LAZY MAN’S FRONT AND BACK PALM」のヴァリエーションを続けています。なお、同トリックは「APOCALYPSE」誌（１９８６年５月号）に発表されたものですが、もっと世間の評価を得ても良い作品だと思っています。
ともかくこのトリックは視覚的効果も備えたとても驚くべき現象で、演じるのも楽しいものです。このヴァリエーションは、最後のクライマックスに導く過程と、客の納得性に焦点をあてて考えました。以下の解説の中でも触れたいと思います。もしあなたがこのトリックのやり方を知ったら、是非やりたいと思うでしょう。もしあなたがやり方を知らなければ、間違いなくだまされる側となります。
（やり方）

―以下省略―

オリジナルの Vollmer 氏のトリックでは、４つのパケットが作られた後に、DARYL の「RISING CRIME」DISPLAY というやり方で K を扱っていますが、興味のある方は STEPHAN MINCH の１９８２年の本「FOR YOUR ENTERTAINMENT PLEASURE」２４頁を見てください。
私は、K と A のスイッチに、前述のほとんど知られていない Marlo のやり方を使い、ハンドリングを修正しました。ただ単に客にデックを４つに分けさせるのではなく、セットした部分をキープしたまま客にシャフルさせ、カットさせるようにしました。
それ以外の部分はプレゼンテーションの問題であり、マジシャンそれぞれの考え方となります。私は、「最も驚くべき現象はあなたが引き起こします。でも、あなたはそれに気づかないのです」というセリフが好きで、実際事態はそのように展開されていくのです。４A の出現を予想する人はいません。誰も、です。

3. HEART OF GLASS

（訳注：タイトルは「ガラスのハート＝壊れやすい心」という意味。アメリカのバンド BLONDIE が４０年以上前に発表した大ヒットソングのタイトルでもあります）
（現象）
スペードの A（SA）をグラスの下に、ハートのクイーン（HQ）をグラスの上に置き、デックを HQ の上に置きます。
マジシャンがデックをリフルすると、SA がデックのトップから現れます。デックとグラスをどけて見ると、テーブルには HQ があるのです。

２枚のカードの素朴な入れ替わり現象ですが、とても説得力があるものです。

これは Peter Duffie のとても巧妙な「CRYSTAL CLEAR TRANSPOSITION」と、同じく巧妙な Jack Carpenter の「TOUCH MY HEART」、両方の良い所を組み合わせたものです。うまくミックス出来ており、即席に出来て同一カードも要らないので、あなたも気に入るでしょう。[redacted]
よく広告文句にある「いつでもどこでも、シャフルされたデックで出来る」類のトリックです。

（やり方）

―以下省略―

4. NO NO NO MAYBE YES

（現象）
「普通カードトリックには名前があります。このトリックの場合は、名前が「NO、NO、NO、NO、NO、NO、NO、MAYBE、YES」というのです」
という変なセリフから始めますが、先ず客にシャフルされたデックから何枚かのカードを取り出してもらい、その中の１枚を覚えたらすべてのカードをデックに戻します。そして、ランダムな枚数のカードを BURN したら、デックを何回か自由にカットしてもらいます。これで、カードの順番はまったく分からなくなりました。
（訳注：「BURN」（燃やす）と言うのは、カードゲームでデックがシャフルされた後、万が一トップカードが覗き見られているのを防止するために、トップカードをデックの中央に入れてしまうことを言います。数枚を BURN することもありますし、ボトムカードを BURN することもあります。
なお、トリック名については日本語では、「いいえ、いいえ、・・・・、近いかな、それです」といった感じです）

マジシャンはカードに触りません。
「このトリックの名前を憶えていますか？まずは１枚のカードを表向きに配って、その名前を言ってください・・・いいえ、それはあなたのカードではありません。さらに３枚を配ってくれますか？いいえ・・・いいえ・・・いいえ・・・さらに３枚配ってくれますか？いいえ・・・いいえ・・・いいえ・・・もう１枚配ってください・・・あ、待ってください、近づいたかな？・・・」
このようにマジシャンは何枚かのカードを「いいえ」と言ってどけて行き、１枚のカードのところでストップします。
「私にはあなたのカードが何かは分かりませんが、このカードがそれに近づいたような感じを受けたのです。そのカードはあなたのカードに似ていませんか？同じ色ではないですか？同じ印でしょうか？一体あなたのカードは何なのでしょうか？・・・でも近いのです。ではさらに次のカードを配ってください。ああ、まだ表は見ないでください。

このトリックの名前を憶えていますか？『いいえ、いいえ、いいえ、いいえ、いいえ、いいえ、いいえ、近いかな』そしてそのカードですが、そのカードが『それです』！
あなたのカードの名前を教えてください。そして、そのカードを皆さんに見せてあげてください」
まさしく、最後に配られたカードが客のカードなのです！

（やり方）

—以下省略—

5. PAINT IT BLANK

（現象）
マジシャンは２枚のジョーカーを表向きで少し広げて重ねて、カードケースの上に置きます。
客に心をブランクにしてもらい、そこに１枚のブランクカードを思い描いてもらいます。そして、さらにブランクカードに色付けして、１枚のプレイングカードを思い描いてもらいます。
マジシャンは何のカードかを聞きます。客が「クラブの３」（C3）と言ったとします。
マジシャンはマジカルジェスチャーをして、これで C3 は透明になったと宣言します。マジシャンはデックを流し見て行き、１枚の透明なカードを抜き出して２枚のジョーカーの間に入れます。
マジシャンは２枚のジョーカーを取り上げますが、「まだ選ばれたカードは透明なので、見えないでしょう」などと言います。そして、２枚のジョーカーをデックのトップに裏向きにしますと、ジョーカーの間に１枚のカードが突然出現しますーただし、それはブランクカードです。
「あなたはまず、自分の心をブランクにしました」
と言いながら、３枚をひっくり返してジョーカーの面を上にします。
「それから、最後に１枚のカードの絵を思い描きました」
裏向きのブランクカードを取って、客の手の上に置きます。マジシャンは、客が信じていないのではないかと言います。
「今やっていることを、あなたは信じていないように思えるのですがね。不思議な話なので、信じないのも無理はありません。しかし、あなたは自分の想像力というものにもっと自信を持つべきです。
思っているカードは何ですか？・・・そのカードを開けて見てください」
客が手の上のカードを開けると、ブランクカードが C3 になっているのです！

（やり方）

—以下省略—

6. MUNDO

—以下省略—

7. BANK JOB

—以下省略—

8. TRIPLISITY 2022

—以下省略—

—以上—

日本語説明書©2025 FTM: *Feather Touch Magic Inc.*

販売：(有)フェザータッチ MAGIC

www.FTMagic.JP

フェザータッチ 検索

メール: **FT@FTMagic.JP**